

2021年度Joint Education Programによる授業実施報告

夏学期集中講義

国際社会をひもとく A/国際社会と地域 1

Dynamic Asia: Topics in Peace and Conflict Studies from Diverse Perspectives

ダイナミック・アジア：多様な観点から平和と紛争を考える

2021年9月6日（月）、7日（火）、8日（水）、9日（木）

本授業では、協定校を含む紛争経験国のアジアの7大学とオンラインで接続し、各大学の教員より本学学生向けに講義を行ってもらった。本学大学院の平和構築・紛争予防講座で行っているPCSグローバル・キャンパスプログラムのネットワークを学部授業向けにも活用した。紛争解決や紛争分析を含む平和学の基礎の理論学習をした後、紛争経験国の大学教員より各国の紛争について講義いただき、その講義を聞いた上で学生は活発に質疑や教員との討論をしたり、学んだ理論、特に紛争分析のツールを使用して各国紛争を分析したりすることで学習内容をより深く理解するという内容である。理論の習得のみならず、現地の教員から現地の紛争についての話を直に聞き、インタラクションができるということがこの授業の特徴である。また、平和や紛争という概念には一つの絶対的な定義があるわけではなく、見ている角度によって解釈も変わるということを学生に実際に体感してもらおうことも趣旨である。

1日目は基盤となる理論学習に終始し、2日目はカンボジア、インドネシア、スリランカの紛争について、各国教員の講義を受け、討論等も行った。3日目、4日目は、現在進行形であるインドとパキスタンのカシミールを巡る対立について学習した。3日目は、パキスタン、パキスタン側のカシミールの各大学の教員から講義を受け質疑、討論等を行った。4日目はインド、インド側のカシミールの各大学の教員から講義を受け質疑、討論等を行った。この2日間に行われた4大学の講義では、例え国が同じでも各教員とも違った立場からこの対立を見ているため、分析の観点、同じ意味の表現でも使用する単語が違っていったこと、それぞれの正当性の主張の違いなどを学生は実感したようだ。全体的な感想としては、各語科の学生が現地の教員の平和・紛争に関する講義を初めて聞いて嬉しかったという声や、また、インドとパキスタンの紛争に関しては深刻な状況についても現地教員から直接聞くことができ、国家間紛争がいかに人々の生活にまで影響してくるかを深く理解したという声などがあり、学生は多くを学んだようである。今年は例年に比べて質疑も大変活発だった。